

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・気候が不安定だったため抑えられていた購買欲が、涼しくなったことで戻っている。	・インターネットでの受注が普及してきたせいか、母の日以外の月で初めて10万円を超えた。 ・地元球団の優勝セールで売上は良かったが、まだまだ楽観はできない。株価等、様々な指数が上向いてきているので、確かに景気は上向いてきているが、依然として客の買い方は非常にシビアである。いいもの、あるいは安い値段でないと売れない。また、今までのような品ぞろえでは、客に振り向いてもらえない。 ・気温の急激な変化により重衣料関連が活発に動き出している。また、地元球団の優勝が二度続いたこともあり、販売量が急激に増えている。 ・売上は前年比102.5%、買上数量は同99.1%、購買客数は同95.9%となっている。1品単価、購買単価がそれぞれ前年を上回っている。 ・中旬以降冷え込みも本格化し、鍋物や秋商材の動きが活発化した。買上点数アップによる客単価アップがある等、冷夏であった3か月前より季節商材が好調である。 ・好天によりソフトドリンクやファーストフードの売上が伸びた。客の動きも少しずつ良くなっており、客単価もアップしている。経費を大幅に削減し、何とか黒字を確保できそうである。 ・客数は相変わらず少ないが、衝動買いもあり客単価も上がってきている。 ・ようやく寒くなりアウター等が動き出した。また、地元球団の優勝により、中盤以降も企画品等の割安感のある物がかなり動いた。今まで買い控えをしていた人たちの消費が動いてきたようである。 ・高額商品の動きが今ひとつながら、先月の売出効果が呼び水となり、今月もその状態が継続している。 ・高機能、高価格商品の動きが良くなってきた。 ・ここ3年間くらい、パソコンの売上がダウンしていたが、底をついたのか今年の8、9月から前年を超えている。液晶テレビ、プラズマテレビといった薄型テレビの売行きが良い。 ・プロ野球日本シリーズの影響で福岡に人が集まっており、客の様子が上向いている。 ・焼酎ブームにより最高潮である。 ・県外からの人の動きが良く、週末の夜はにぎわっている。 ・今月に入り販売量が大幅伸びてきた。 ・来客数の動きが今月から年末にかけて前年より2割くらい上がっている。ツアー客、社員旅行、市町村合併で統合される学校どうしの同窓会コンペ等、意外と最近では珍しい予約が入っている。旅行者も来客数が増えている。 ・他の設計事務所の話では、引き合いや計画が若干増えてきているようである。 ・打合せに来る客数が増えた。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き		
		百貨店（営業担当）	それ以外		
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き		
		百貨店（売場担当）	販売量の動き		
		スーパー（企画担当）	単価の動き		
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き		
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子		
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き		
		家電量販店（店員）	販売量の動き		
		家電量販店（総務担当）	単価の動き		
		家電量販店（企画担当）	販売量の動き		
		高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子		
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	お客様の様子		
		タクシー運転手	お客様の様子		
		通信会社（総務担当）	販売量の動き		
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き				
設計事務所（所長）	競争相手の様子				
設計事務所（職員）	来客数の動き				
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・優勝セール等の催しをすれば客数が増えるが、にぎわいも長くは続かない。目玉商品等の他は動かない状況が続いている。		

商店街（代表者）	単価の動き	・地元球団の優勝でもう少し盛り上がるかと思われたが、短期間で沈静化したようである。一方で9月にオープンした郊外ショッピングセンターの影響が徐々に出ており、人の動きは少し鈍くなっているようであるが、反面、単価の高いものが動いており、トータルでは横ばいである。
商店街（組合職員）	それ以外	・空き店舗が少しずつ増えている。シャッターが下りている店舗もそのままであり、再開する様子はない。
商店街（代表者）	お客様の様子	・専門店の買物客が、郊外型の安売り店へ流れる傾向が強い。
商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街への来客が少なくなっている。特に土日祝日の来街者の減少が顕著である。
一般小売店 〔茶〕（店長）	来客数の動き	・来店客数、客単価ともに減少している。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・クレジットカードでの買物による1割払戻セールが始まり、プロパー商品が売上を伸ばした。価格への敏感な反応がみえる。また、秋の友の会のお買物券引き換えと新規申込を始めたが、お買物券での購入や新規入会は前年割れである。口数も減少し、買物に対して慎重になっている。また現金不足の傾向もある。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・優勝セール等の催しをすれば動員は図れるが、にぎわいも長くは続かない。目玉商品の他は動かない状況が続いている。
スーパー（経営者）	競争相手の様子	・郊外大型店が相次いで出店している影響で、ローカル店は低迷している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・ディスカウントセールでの販売量が、1人3、4点から2点になる等、まとめ買いが減っている。
スーパー（店長）	競争相手の様子	・プロ野球チームのリーグ優勝セールが好評であり、かなり多くの人出であったが、客の買い方はシビアである。安いものだけが売れている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品の場合、うまいもの大会や北海道フェア、産直等の企画をすればそこそこ客は来るが、それ以外は厳しい状況である。衣料品は秋物衣料が順調に推移しており、今月は2けたの伸びである。3か月前より大分回復している。
スーパー（店長）	単価の動き	・客数が前年比110%増であるのに対し、売上は同95.3%、客単価は同86%となり、非常に苦戦している。
スーパー（店員）	販売量の動き	・タイムサービスの時間帯に客が集中する。よくチラシを見ている。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・自分の欲しい商品は金額にある程度関係なく購入するという客の動きが見える。
コンビニ（店長）	単価の動き	・通勤通学であまり小遣いを持たないのか、今まで2種類買っていたところを1種類にしたり、安い商品を買うという傾向がある。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店の売上は前年比2%減、コンビニエンストアが同4.6%減、ローカルスーパーが同3.6%減と、どのチェーンも前年をクリアしておらず、伸び悩んでいる。
衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・恒例の秋の売出しはヤング物と宝飾品が前年を上回る実績であった。反面ミセス・婦人服の売上が前年比を下回っている。総合すると、わずかに前年比増となった。
その他専門店 〔医薬品〕（従業員）	販売量の動き	・季節によって売れる商材は変化するが、販売量は3か月前と変わらない。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数も客単価もあまり伸びない。当店ではコース形式で料金を設定しているが、一番下のコースを注文する客が多い。
スナック（経営者）	競争相手の様子	・周りの店や出入りする業者の話では、売上はあまり良くないとのことである。また、今年いっぱい閉店する店も何軒か聞いた。例年10月は売上が良くないため、営業活動に力を入れたが、昨年より売上が悪かった。
都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・客の動向は単価に左右される。単価をある程度落とせば客が入ってくるが、ちょっと上げると客数は落ちる。

		タクシー運転手	来客数の動き	・長時間（24時間）勤務しても思うように売上が上がらず、困っている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・展示場への来客数や売出しの時の来客数が少なくなっている。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・消費者の買い控えがより一層増したようである。
		百貨店（営業企画担当）	競争相手の様子	・地元で西日本最大の大型商業施設がオープンした。10月は地元球団優勝セール等で好転したものの、依然として影響は大きい。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・どんなに安売りしても必要量以上は買わず、買いためもしないという傾向がここ2、3か月目立つ。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・地元球団の優勝セールで需要が高まったようにも見えるが、一時的なものである。既存店の売上減も大きく、新設店も思うように伸びていない。
		コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・同業社の出店や、スーパーの深夜営業等が影響し、売上等が悪化している。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	お客様の様子	・車検業務に関しては、安値車検では集客が難しくなっている。ひとつの車に長く乗るために、金額は多少上がっても、しっかりとした整備を望んでいるようだ。消費者は支出の優先順位をしっかりと考えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・地元球団の優勝記念セールにより、人の動きはかなり良いが、夜は動きが悪い。歩いている人さえ少なく、やや悪い状況である。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・低価格を打ち出す競合他社への顧客流出が増加傾向にある。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新機種的大幅値下げにより、先月、携帯電話新規契約、機種変更とも販売台数がかなり伸びた。その反動で、今月はキャンペーン中にもかかわらず販売台数が減った。また、今月から携帯電話の機種変更優遇期間が半年から1年に延び、機種変更の販売台数が減少した。
		パチンコ店（店員）	来客数の動き	・プロ野球日本シリーズや行事が多く、来客数がかなり厳しい状況だった。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・20年近く商売しているが、これほどまでに年々売上が落ち込むのは初めてで、悪い方向に向かっている。	
悪くなっている		百貨店（売場主任）	それ以外	・10月に約4億円を投じ、全店リニューアルを行ったにもかかわらず売上、来客数共に実績を割っている。従来では考えられない客の動きである。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・近所でシャッターを閉める店が多くなってきた。
		乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・3か月前は、一番安い層で1台あたり20～25万円の車を捜しに来ていたが、今は5万円程度の車を捜しに来るようになった。景気は悪くなっている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・ピーマン等の園芸作物の出荷が始まったが、好調な昨年を上回る取引価格となっており、期待感が強まっている。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・商業施設の新規案件がかなり増えている。相変わらず低価格の受注競争が続いているが、物件の量は確実に増えている。九州では福岡県だけが活気を取り戻しつつある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は大分良くなってきているが、好調なのは営業用の食器で、通常販売されている量販店向けや小売店向けの食器はあまり変わらない。一般的な景気の回復はまだまだである。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量の増加に伴い、設備投資の要求がお客様から出ている。設備機械の価格が若干高くなっている。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新聞折込広告の枚数が前年比109.0%と久しぶりに高い数値を示した。地元球団優勝によるセールのチャシが高い経済効果をもたらした。
	その他サービス業[物品リース]（役員）	それ以外	・取引金融機関の融資スタンスが積極的になってきた。金融不安が遠のいてきたことを実感する。ユーザーの前向きな投資意欲がうかがえることも、今月の特徴的な動きである。	

変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・スーパー、居酒屋向けの直接消費は、少しずつではあるが伸びている。ただし大手加工品メーカーへの納品は非常に厳しい状況である。メーカーが海外生産にシフトしたり、加工品のヒット商品がないことも原因のようである。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・公共事業等の削減により受注価格や販売価格の動きが厳しくなっている。	
	鉄鋼業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原料価格がじりじりと上がってきているが製品価格も上昇してきているので足元の収支は安定している。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連の動きはやや良くなっていると感じられるが、まだまだ不安定であり、確実に上昇という状況にはなっていない。液晶関係においても同じような状況で、確実に上向きとは言えない。	
	輸送業（総務担当） 経営コンサルタント	受注量や販売量の動き それ以外	・今月は冬物衣料品がやっと動き出した。その他はあまり変わらない。 ・単価が下がっていることもあるが、リストラ、合理化がらみの内容の仕事が多い。	
やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体関連は少し良くなっているが、新規事業の塩ビパイプ加工の売上が伸びず、不良債権、代金の回収が遅れている。	
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・工事の契約件数、工事高に顕著な伸びが見られない。個人住宅の着工は激減している。	
悪くなっている	繊維工業（営業）	それ以外	・気温が安定していない分、季節の変わり目の重要な販売の時期に、消費者の買上がとても悪かった。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・10月中旬より人材派遣の依頼が増えている傾向にあり、お客様からの問い合わせが非常に多い。年末に向かい業務量が増え、現行の人員では処理できないため、人材派遣を依頼しているようだ。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・地元球団優勝によるセールやイベントが地域ぐるみで行われ、消費が活発になっているのか、求人も活況だった。ドームの販売スタッフや、プロ野球日本シリーズで稼働が増えているホテルでの求人も、活発に動いた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・半導体ほか製造業、医療関係、IT関連、通信関連、年末作業の雇用などで、前年同月より数が多い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数については、前年に比べ6か月連続で増加している。特に最近3か月は2けたの伸びを示している。パート求人の伸び幅が大きい。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・設備投資が増加した建設業や、デジタルカメラ、半導体生産等が好調な製造業を始め、主要産業からの新規求人数がここ数か月増加している。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・百貨店・家電量販店における年末商戦に向けての求人需要が少しずつではあるが伸びてきた。また、3か月前と比べて派遣料金の下落幅が縮小傾向であり、年内には横ばいに、年度末の繁忙期にはプラスに転ずる可能性がある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・最近の求人、派遣の注文を見ると、リストラされた社員の最低限補充している状況で、雇用の拡大にはつながらない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新規求人数は増加傾向にあるが、製造業において、国外移転による製造部門閉鎖等で大量離職者が発生し、懸念している。
	やや悪くなっている			
悪くなっている				